

日本各地の伝統美 国産にこだわった漆塗り万年筆シリーズ 第五弾！

『伝統漆芸 麗 石川 創作春慶加賀塗万年筆』

『伝統漆芸 麗 長野 創作春慶木曾塗万年筆』

2024年11月9日(土) 発売

セーラー万年筆（社長：町克哉、本社：東京都港区）は、「伝統漆芸 麗」シリーズ第五弾として、日本各地の伝統美を活かした2種の漆塗り万年筆を2024年11月9日（土）より全国のセーラー万年筆製品取扱販売店にて発売いたします。

■伝統漆芸 麗

伝統漆芸 麗 は、「漆」を塗り上げ装飾する伝統漆芸を用いた筆記具のシリーズです。2019年6月、シリーズの第一弾として、「輪島 曙塗」、「輪島 溜塗」、「津軽 錆塗」を発売しました。その後第二弾は2021年10月、「岩手 樹水塗」、「青森 流紋塗」、「石川 創作加賀塗」の3種を発売。第三弾は2022年12月、「福井 創作若狭塗」、「青森 八戸塗」の2種を、第四弾では「青森 風雅文塗」の発売と続き、第五弾となる今回は「石川 創作春慶加賀塗」、「長野 創作春慶木曾塗」の2種を追加いたします。

●シリーズ名「麗（れい）」について

漆塗りの調度品（漆器）の価値は奈良・平安時代、貴族社会の富の象徴、神仏世界具現の麗美なものとして確立したとされています。漆の語源とも云われる「麗（うるわし）」は、この上もなく美しいものを意味する言葉で、日本の美の概念が芽生え栄えたその時代ゆえ「漆」に「うるわしさ」を与える言葉として漆に繋がっていったのは自然なことだともいえます。

日本の伝統の美しさや奥深さ、人に潤いと感動を与えるものとして、ペン軸始め付属の一本袋や桐箱に名高い真田紐と拘り、すべて国産を意識し、伝統漆芸「麗」シリーズと名付けました。

[石川 創作春慶加賀塗]

加賀塗は、漆産地で名のある石川県加賀市の山中漆器の特性である優美さをもつ漆技法です。漆芸で栄えた山中地域は、様々な漆工芸の研究が進み、漆の変わり塗り技術の進化は目にみはるものがあります。変わり塗りの中でも、漆の重ね塗りで文様を削り出し、さらにその上に漆を塗って研ぎ出す技法は創作春慶塗として完成されました。下地となる漆の重ね塗りは、漆の濃薄や漆塗りの刷毛目の細太などの筆具合によって表情が変化するため、作家の感性によって様々な漆芸品が生み出されています。

当製品に施されている創作春慶加賀塗は、加賀市在住の三十年以上漆芸に携わっている作家、小林己眞（小林正俊）氏の作品です。自然が育む静謐な流れや人の感情の豊かさに思いをはせた文様を現し、透明感のある奥ゆかしく優麗な漆芸は類を見ないものとなっています。漆芸家として長きに渡って漆に携わってきた小林氏の集大成といえるもので、下地となる漆の重ね塗りによる無数の表情を研鑽研究してきた作家ゆえ出来上がった作品となります。



創作漆芸作家

小林 己眞 作 [こぼやし いきま]
(小林 正俊)



プロフィール

石川県加賀市生。
石川県立輪島漆芸技術研修所卒業
伝統工芸士 角出俊平氏へ弟子入後、
蒔絵師 小林正男氏へ弟子入
日本工芸会所属

2007年 小林漆芸工房 代表
カナダバンクーバーにて作品展示
カナダ・ケベック博覧会にて作品展示及び蒔絵実演
ニューヨークにて蒔絵装飾パネルを展示
2007年 外務省要請によりドミニカ共和国
フェルナンデス大統領へ贈呈品の寄贈

[長野 創作春慶木曾塗]

木曾漆器は、長野県塩尻市の宿場町の一つ、木曾平沢周辺で17世紀初頭より培われてきた伝統漆芸です。豊かな森林資源と漆器に適した湿潤な気候が育んだ中山道の街道文化であり、そこから産業として発展し、江戸時代中期頃からは木曾物といえは平沢の木曾漆器のことをいうほど全国に広まりました。木曾平沢は、中山道筋の南北に細長く多くの工房や店舗が軒を連ね、漆工を行う街並みを形成しました。平成18年には建造物が立ち並ぶ街並みが「漆工町」として「重要伝統建造物群保存地区」に認定されました。木曾塗は、有名な木曾春慶、木曾堆朱に代表されるように漆の重ね塗りに特性があります。

当製品に施されている創作春慶木曾塗は、木曾漆芸家の岩原裕右氏が木曾堆朱に創意工夫を重ねて生み出したものです。何度も重ね塗りをし仕上げた木曾堆朱で下地を仕上げ、春慶塗の特徴といえる下地を浮き出させる手法を用いて創造性を高めながら、創作春慶塗を生み出しました。感性豊かで味わい深い風合いをもつ、優美で優れた漆芸品となっています。



創作漆芸作家

岩原 裕右 作 [いわはら ゆうすけ]



プロフィール

1978年 長野県塩尻市生れ
漆芸家の家系に生まれ幼少より漆工を学ぶ
高校卒業後、皮革細工、シルバークセサリー、金属加工、溶接工など様々なものづくりの仕事を経験し、本格的に伝統工芸士の父に弟子入りし指導をうける。

2012年 未空うるし工芸を設立
2014年 既成にとらわれない新たな漆芸品のブランド「JaCHRO」を立ち上げる
2015年 皮革に漆を塗る手法を編み出し、漆塗りレザー「JaCHRO Leather」という新商品を開発、販売を開始。
2016年 信州ブランド2016にてJaCHROが選出される
2018年 第53回全国漆器店にて、漆塗りエレキギター、エレキベースが審査員特別賞を受賞する
以降、様々な漆塗皮革製品を始め、今までにない新たな漆芸品を生み出している。

21 金 大型ペン先とエポナイトボディ



万年筆は、しなやかな書き心地に定評のある 21 金大型ペン先、軸にはインクの耐食性に優れ、堅牢で狂いが少なく、使い込むほどにしっとりとした感触の心地良さが感じられる「エポナイト材」を使用しています。

一本袋



一本袋は、着物をほどこいた生地を裁断し、一つ一つ手作りで仕上げております。着物からとった上質な正絹の手ざわりは心地良く、すす竹から手作業で削り出して作った爪も相まって、万年筆の収納に適した仕上がりです。
※色、柄は一つ一つ異なります。

桐箱



桐箱は漆製品の保管に最も適した素材と言われており、木目が細かく高品質な国産桐を使用しております。結紐には千利休も茶道の道具箱に愛用したといわれる伸びにくく丈夫な真田紐を使用しております。

【製品スペック】

品名：伝統漆芸 麗 石川 創作春慶加賀塗万年筆 そうさくしゆんけい かが ぬり

希望小売価格：165,000 円（本体価格 150,000 円）

ペン先：21金、中字、大型

蓋・胴：エポナイト材、石川創作春慶加賀塗

大先：PMMA樹脂／ブラック

本体サイズ：φ17×151mm、30.9g

パッケージ：専用桐箱（156×201×49mm）

品名：伝統漆芸 麗 長野 創作春慶木曾塗万年筆 そうさくしゆんけい きそ ぬり

希望小売価格：165,000 円（本体価格 150,000 円）

ペン先：21金、中字、大型

蓋・胴：エポナイト材、長野創作春慶木曾塗

大先：PMMA樹脂／ブラック

本体サイズ：φ17×151mm、31.8g

パッケージ：専用桐箱（156×201×49mm）

【セット内容】2種共通

万年筆本体、カートリッジインク ブラック 2本、専用一本袋（国産）、

クリーニングクロス、万年筆使用説明書、専用商品説明書カード

【製品の取り扱いに関する問合せ先】

ユーザーサービス：0120-191-167（フリーダイヤル）

以上

《当りリリースに関する問合せ先》

開発本部：03-6670-6605 木村（kimura-a@bungu.sailor.co.jp）

不在時：開発本部 徳増（tokumasu-k@bungu.sailor.co.jp）

※画像のご依頼は、木村（kimura-a@bungu.sailor.co.jp）までお願いいたします。

※当資料は、東商記者クラブに投函しております。

会社概要：セーラー万年筆株式会社（代表取締役社長 町克哉）コード番号 7992 東証スタンダード

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 10 階

Tel: 03-6670-6601 URL: <https://www.sailor.co.jp>